

# 2024 年度 学校法人 三幸学園 東京ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡部 景子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 中島 えり

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

教育理念の下、社会で必要とされる人材育成の強化を図り、美容業界の現場で活躍できる学生を多く輩出するために、在学期間中から現場を意識して指導をした。また、様々な授業を通し心の成長に繋がる機会を設け、あらゆる現場で対応していく力(接客スキルなど)を体系化した SANKO ワークコンピテンスの浸透を図り、学生が自身の社会人スキルを自身で高めていくよう指導した。

・学生の多様化に伴い、2024 年度は登校しやすい環境設定の工夫に取り組んだ。

その一つに、各科目の特性に合わせた学びを展開するため、遠隔授業を取り入れた。その結果、一部の学科を週 4 日登校にするなど時間割の工夫を行うことができた。

・オリエンテーションとなる行事「スタートアッププログラム」にて、三幸学園で大切にしている社会人基礎力「SANKO ワークコンピテンス」について理解を深め、授業内でも継続的に意識し続けることで技術だけではなく心の成長を促すことができた。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

藤原さん：最近の就職先企業様からのニーズでヒューマンスキルの高さがより一層求められているように感じる。2024 年度から「SANKO ワークコンピテンス」の浸透を強化しており、日常から自身の社会人基礎力を意識して取り組んでいる。また、トータルビューティー科 2 年生はオンデマンド授業を活用し、週4日登校を行うことで、学生自身が主体的に学ぶ取り組みを行った。(美容科・トータルビューティー科)

中島委員：私自身、在学中にアルバイトも行っていたため、週 4 日登校は学生が学ぶ環境として非常によいと感じる。オンデマンドは学びの成果等は対面授業と変わりはないのか(トータルビューティー科)

藤原さん:検定合格率や単位の履修状況を振り返っても習熟度の低下は見られなかったと感じている。  
また、オンデマンドのメリットとして何度も繰り返し視聴できる長所もあり、よい形で作用したと考えている。  
(美容科・トータルビューティー科)

岡西委員:多くの企業様から社会人基礎力の高い学生を望む声は多く聞く。特に皆精勤は関心が高い。  
学生時代から自分で意識し、成長する意欲を持てるのはとてもよい機会だと思う。(トータルビューティー科)

大瀧委員:当社では自分の目標は自分で設定する。それを実現できたかが評価に直結する。主体性を持って取り組む事が大きく成長につながっていると実感している。社会人基礎力を日頃から意識し、自分で目標設定していく習慣はとても良いと思う。(美容科)

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

社会経済のニーズは変化が大きく、美容業界全体の課題である人材不足に貢献するため、1人でも多くの学生に資格取得を促し、サポートをすることが重要である。また、退学率を軽減することで多くの人材を輩出していけるように取り組む必要を感じている。

#### ② 今後の改善方策

人事制度の改正により、三幸学園として美容業界との繋がりを強化する為、新たに分野専門職という職種が設置された。分野専門職とは、適宜、業界ニーズの把握を行いながら、業界関係者との連携構築と社会経済のニーズに合わせた教育提供を果たす行う役割である。

#### ③ 特記事項

学校の理念・目的・育成人材像を明確にし、学生にはオリエンテーションや授業を通じて、保護者に対しては保護者会や授業見学会などを通じて浸透を図っている。

年2回実施している教育課程編成委員会にて業界ニーズの把握とカリキュラムやシラバスの見直しを実施している。

新入生向けの保護者会を対面・オンラインの両方で実施し、学校の教育方針や理念・育成人材像等、理解と共感を得られるよう伝えることができた。

例年、6月に全学年の保護者様を対象とした授業参観の機会を設けている。

学生へは学校の理念・目的・育成人材像を4月の入学時点で3日間かけて「スタートアッププログラム」を実施しているが、再認識する機会として後期スタート時にもスタートアッププログラムを1日実施し理解を深めた。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

大瀧委員：業界からのニーズを申し上げると夢を持って入社してもらう事はとても重要だが、現実と夢のギャップという面で、やりたい事ばかりに主体性を発揮してしまうと仕事の成果や自己の成長に直結しない事もある。現実的かつ主体性をもって入職いただけると本人にとって成功につながると思う。(美容科)

石川委員：すぐに接客できるわけではないが、入社後は協働力や主体性を大事にしてほしい。主体性は特に重要で、主体的な人はマナーが身につくやすく好感の持てる人柄にもつながり、成長速度にも関連性がある。(トータルビューティー科)

齋藤委員：仕事を続けていく上で、共感力・協働力が必要だと感じる。このあたりは学生時代の経験が大きいと感じるので、高校でも積極的に機会を作り、成長を期待する点でもある。（美容科・トータルビューティー科）

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

運営組織・役割が明確化されてはいるが、適材適所での業務分担や業務の効率化を図り、業務バランスを見た上で個々へ適切に割り振る必要がある。教育目的と時代に合った学事日程が組まれるよう年間のスケジュールを見直していき、業務の効率化に繋げていく。

### ② 今後の改善方策

教職員の指導・実務スキル向上のため、研修を充実させる。会議では、より多くの教職員を巻き込んで意見交換ができる場を提供する。また、時間確保や適材適所で業務分担できるよう、授業担当数や校務分掌の工夫を行う。

2024年度より導入された新しい人事評価制度を活用し教職員育成にも反映させていく。

### ③ 特記事項

教職員への案内は学習管理システム(Sanko Gate)およびMicrosoft Teams(アプリ)の二つを併用活用してタイムリーな情報提供・ペーパーレス化を図っている。

その他、勤怠管理、経費精算、給与明細、請求書管理においてシステム化をしている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

藤原さん：業務効率向上のため、様々なツールを導入している。また、三幸学園の教職員全てがオンデマンド型のコンプライアンス研修を受講し危機管理への意識を高めた。2024年度は人事評価制度も一新している。規則は明確化されており、整備されていると感じている。（美容科・トータルビューティー科）

大瀧委員：現場では自分で目標設定し、セルフマネジメントして自己評価している。教職員の方にも「自己評価」の基準を設けることで活用できるのではないかと。適材適所の配置は重要だが、そこで自分がどのような目標をもって働くのかが重要だと思う。当社は、大手美容室としてコンプライアンスや人事制度、給料形態は整えているが、労働条件が整っているサロンよりも、サロンの知名度や自分がやりたいデザインを行える等の面を重視し就職活動をしている学生が多い現状もある。(美容科)

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員的能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

卒業生採用に力を入れ、学校求人公開を行った。教員の能力開発では指導力に力を入れているが、今後専門分野の技術スキルアップ研修を検討したい。

カリキュラムマップを全教職員で共有し、カリキュラムの体系化を可視化している。複数名の教員が関わる事で連携を強化し、学生の学びに一貫性を出していく必要がある。

教育課程編成委員会で頂いた意見をサロンワーク等に反映させ即戦力の人材育成に尽力する。

## ② 今後の改善方策

各分野の技術スキルアップ研修を実施する

教務研修や OJT 指導者の配置など人材育成にも取り組んでいたが、まだ十分とは言えない。引き続き体系的な教育を推進できるシステムの構築を進める。担任が運営する学科会や全講師が参加する教科会を 2 ヶ月に 1 回の頻度で実施し授業内容の質を高めることや、各教科会での好事例を他の教科へ共有する方法を検討していく。

## ③ 特記事項

一部の科目では現在もサロンで活躍している方々を講師として招くことで関連分野における最先端の知識・技能等を学生に展開している。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

藤原さん：技術研修のスキルアップ、即戦力の育成を引き続き継続していく。

（美容科・トータルビューティー科）

岡西委員：教職員のスキルアップでは東京ビューティーアート専門学校と連携し、昨年はネイル技術のスキルアップ研修を提供した。

講師の方々が、とても熱心に参加されていた事が印象的であった。今後も研修など提供できる事は連携していきたい。（トータルビューティー科）

大瀧委員：サロンワークではより実践力を強化して欲しいと感じる。新入職員には社会人スキルや接客力が不足している状況がある。面接とは違う礼儀作法を学ぶ必要がある。

技術において学生は法律上、人を触る行為はできないが、接客スキルを学ぶ機会を提供できると思う。

対人スキルが低下している傾向は業界の課題だと感じている。（美容科）

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

就職率は向上しているものの、学生のニーズが多様化している為、就職先の新規開拓が必要である。次年度は東京ビューティーアート専門学校独自の就職イベントを実施する予定であり、就職先の拡大を目指す。

退学率低減の継続と資格試験合格率の更なる向上を図る。

卒業生支援に力を入れる為にも卒業生と良好な関係性を構築していく必要がある。

##### ② 今後の改善方策

退学率低減のため、1クラス1人の担任を配置した。学年の担任連携をより強化し、教務会議での情報共有をこまめに実施することで、多くの視点から問題点を把握し早期対応を可能としていく。

人間関係におけるトラブルについては、カウンセラーの力を借りてカウンセリングの機会を増やし、行事等を通して「共働する力」を伸ばせるよう指導していく。学び方を選択する機会を増やし、オンライン学習等も取り入れていく。また今後は、その年の3月卒業生を対象とした同窓会を毎年実施していき、卒業後も連絡がしやすい関係性を築く。

##### ③ 特記事項

文部科学省の委託事業に協力し、卒業生に対して卒業後のキャリア形成の把握をした。

卒業生向け同窓会サイト「Sanko Link」のHP及びInstagram やLINE 等のSNSを活用し、支援の取り組みを実践している。

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

衛藤さん: サロン選びは「自分にあっているか」で検討している学生が多いため、学校としても新規開拓に力を入れ、本校独自の就職イベントを 2025 年度に予定している。就職率は前年度を上回った。退学率においては昨年度より軽減したが更なる対策が求められる。カウンセラーを配置し、カウンセリングの機会を増やしている。(美容科・トータルビューティー科)

大瀧委員: 学校において就職指導の担当は担任ではあるが、企業側からすると都度学校の担当が変わると、企業情報の提供などタイムリーな連携がしづらいと感じている。学校の担当者を明確にしていただけると密に行えるのではないかと。また担当の先生との関係構築を考えても、毎年担当窓口が変わるより数年定着する方がよい情報交換ができるのではないかと。(美容科)

渡部さん: 昨年は文科省の委託事業において卒業生の継続率調査に協力した。同窓会にも力をいれさらに卒業生支援および企業連携を行いたい。転職が気軽な時代だからこそ、卒業後のフォローをすることで業界内定着を目指していきたい。(美容科・トータルビューティ科)

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

## ① 課題

卒業生の就業状況の把握とキャリア支援、中途退学者への支援体制も検討していく必要がある。  
2024年度よりスクールソーシャルワーカーを配置している。周知に努め学生相談の機会を増やしていきたい。

## ② 今後の改善方策

その年の3月卒業生を対象とした同窓会を実施し、卒業生の状況把握やキャリア支援を行った。今後も卒業生との良好な関係作りや就業状況把握やキャリア支援を目的に定期開催していく。

学校在籍時より、卒業生向け同窓会サイトの存在を広く周知し、有効活用するとともに同窓会委員の選出を行い、卒業生を構成員とする同窓会の運営をしていく。

## ③ 特記事項

学生への経済的支援の体制として、奨学金や各種教育ローンの案内を継続的に行っている。

生活環境への支援体制として、提携寮等の案内を実施している。

高校との連携として、通信制高校から入学してくる学生を対象に入学前(3月)と入学後(5月)に交流会を実施した。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

藤原さん:様々な支援体制を準備しており、そこに相談することで解決への糸口になると考えている。

しかし、学生に必要な支援を提供するためのきっかけづくりが課題である。学生が発する小さなサインを見逃さぬよう努めた。(美容科・トータルビューティー科)

石川委員:現場でも成長速度に合わせた指導を心がけている。学びの習熟スピードは個人差があると思うが、その様な状況も含めて採用時に学校から情報提供があると、より個人に合わせた対応ができると思う。

(トータルビューティー科)

齋藤委員：高校においても専門学校と連携し、学生の特性に合わせた配慮すべき点を事前共有することで、手厚いサポートへつながると考える。引き続き、連携を強化し学生の学びの意欲向上に努めていきたい。（美容科・トータルビューティー科）

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

学生数増加に伴い実習室の利用状況がひっ迫する状況があった。

### ② 今後の改善方策

施設実習やインターンシップの参加企業様も増えている状況にあるため、学生が実践的な学びをする場として、引き続き確保していく。実習室の改修を行う。

### ③ 特記事項

VRを導入し、より深い学びを提供できるようになった。

避難訓練を実施した。

防災マニュアルのハザードマップを学生がいつでも閲覧できるようデジタルツールとしている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

藤原さん：施設としては2025年度にメイク実習室・ネイル実習室をそれぞれ一新する予定。学生の学ぶ環境がより整備されていくと感じている。一方、留学生増加に伴い教室の稼働が課題である。学外実習においては多くの新規受け入れ先を獲得できた。また、災害に備えて避難訓練の実施をした。（トータルビューティー科）

平井委員：留学生にとっても学ぶ施設は学校選びの重要なポイントであるため、実習室の改修はとても良い事だと思う。（美容科・トータルビューティー科）

大瀧委員：インターンシップや学外実習等、受け入れ態勢を整えるためにも学校との情報共有や連携を強化をしたい。できるだけ美容の楽しい側面を伝えられるようにサロンとしても努力している。（美容科）

岡西委員：2024年度学外実習を受け入れたところ、皆さん真面目に働いてくれていた。当社でできる事に協力していきたいと思うが、学生のニーズを把握することが難しく、よい学びの環境が提供できているかを振り返る機会があるとよい。今回は学校主催の就職ガイダンスにも参加したことで、学生のニーズを把握することができ有益だった。（トータルビューティー科）

## (7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

適切に募集活動は行われているが、本校の教育だけではなく業界全体を理解していただく必要がある。高校に対して、業界と専門学校教育やその取り組みの双方をご理解頂けるよう引き続き努めていく。留学生の入学希望者が急増しており、入試体制や受け入れ態勢の整備が急務である。

### ② 今後の改善方策

留学生の入試整備や受け入れ態勢、事務処理等課題解決に向けて早急に整備をしていく。

日本語学校への説明機会を設ける等連携が必要である。

入学希望者本人だけでなく保護者に対して、専門学校教育を知っていただき、専門学校進学という選択肢を前向きに検討いただけるよう情報発信を行っていく。また、高校に対し、学園内の広報専門部署と連携を図り、同様に業界の動向や専門学校教育の理解を図れるよう働きかけていく。

### ③ 特記事項

オープンキャンパス・校内・会場ガイダンスを実施する。

オンラインでのオープンキャンパスを実施。

各種学校行事の実施及び告知をする。

留学生向け説明会を実施する。

入学後のサポート体制強化のため、入学前に入学予定者に対してアンケートを実施しており、入学後の不安解消に努めている。

また年々進路活動の早期化を実感しており、高校1・2年生のオープンキャンパスの参加が活発である。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

藤原さん:2024年度入試においては留学生が激増した。出口(就職先など)の確保をしていく必要がある。

また入試後の事務手続きにおいて、労力の負荷が大きかった。留学生増加の背景を平井委員にお伺いしたい。

(美容科・トータルビューティー科)

平井委員:学校を選ぶ基準は口コミが大きい。留学生同士の情報交換はかなり活発である。(美容科・トータルビューティー科)

大瀧委員：2022年度よりスタートしている外国人美容師育成事業における「特定活動(外国人美容師)」についてはハードルの高さがある。

本人の語学力(日本語)が重要視される。企業側が行う、東京都への申請手続きも複雑であり、ビザが交付されるまでも時間を要する。ビザ交付が完了するまで、働くことができないため、経済力が必要である。

採用基準は意思の疎通ができることと、清潔感が必要。過去には中国・韓国国籍の方を採用した実績がある。(美容科)

## (8)財務

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

## ① 課題

教職員の時間外労働は、より一層改善する必要がある。

## ② 今後の改善方策

人員を確保し、個人の業務負担軽減を図る。

留学生に対応する事務機能の整備を図る。

## ④ 特記事項

全教職員を対象に、個人情報の取り扱いやコンプライアンス遵守の研修を実施している。

学校が発信するSNSでの画像・氏名公開には本人の同意を得る事を前提としている。

個人情報が記載されるものは学習管理システム(Sanko Gate)等には公開しない。

外部からの学生情報に関する問い合わせには慎重に対応し、情報漏洩しない。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

藤原さん:個人情報については厳重に管理しており漏洩防止に努めている。教職員の時間外労働については繁忙期や、校務分掌の役割によって差が出ることを留意しつつ、今後も改善を続けていく。(美容科・トータルビューティー科)

大瀧委員:留学生のビザ申請には、交付されるまでに期間がかかる事を想定し、動く事が重要である。(美容科)

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

## ① 課題

スチューデントサロンやボランティア活動など、地域貢献する機会が減少している。

## ② 今後の改善方策

産学連携を強化し、ボランティア活動を推奨するとともに福祉の精神を養う。

今年度、参加したボランティア活動を引き続き継続していく。減少していた機会も増加傾向にあるので、関係先との関係構築に努める。

実際にボランティア参加やヘアメイク現場でのアシスタント参加の機会が増え、学生満足度につながっている。今後も、多くの学生に機会を提供していく。

## ③ 特記事項

産学連携を積極的に取り組む学生チームを発足させた。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

藤原さん:2024 年度より外部ボランティアに特化した学生チームが発足された。様々な活動の中で授業内では得られない経験を提供することができ、実践の場が増えたと感じる。また、サロンワークにおいては地域の方からご支持いただき技術提供も大変好評をいただいている。(美容科・トータルビューティー科)

中島委員:在学中からたくさんのお客様に触れ、ケースデータが蓄積されることはとても価値があると思う。近隣の方へも学校の取り組みをご理解いただくよいきっかけになっていると思う。(美容科・トータルビューティー科)

## (11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

## ① 課題

留学生の入学希望が急増した事で受け入れ態勢の整備が急務である。  
また出願時期のピークは2月ごろであった為、入学手続き等の事務処理が煩雑となった。

## ② 今後の改善方策

日本語学校との提携強化を行う。  
外国人美容師育成事業における「特定活動(外国人美容師)」の受け入れ先との連携強化をしていく。  
留学生指導に関わる教員の知識向上の研修を実施する。  
事務対応の充実を図る。

## ③ 特記事項

留学生取次者を設置している。  
留学生サポートセンター(同法人内部署)と姉妹校である日本語学校と連携している。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

大瀧委員:先ほども述べたように外国人美容師育成事業における「特定活動(外国人美容師)」は企業としても取り組んでいるが、申請が非常に複雑であり、ビザが交付されるまでに時間を要するので事前に学生へ説明が必要。(美容科)

小倉さん:現在ビザ関連の知識は留学生受け入れクラスや事務職員のみ偏りがちである。  
今後多くの留学生が入学してくる事を考えると全職員が留学生指導関わる知識向上に努めていきたい。  
(美容科・トータルビューティー科)

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果は概ね問題ないと感じている。

留学生の増加や生徒の多様化など個別最適の対応方法や工夫には課題感が残る。自己評価を基に細部までしっかりと点検・確認し、地域や業界から必要とされる人材を輩出する学校になるために課題を把握し、学校運営をしていく必要がある。

特に現場の意見からはコミュニケーション力の高い人材のニーズが非常に高い事を再認識する機会となり、今後の指導の重要点と捉え普段の学校生活から『挨拶』や『相手を思いやる心』を育てるとともに、技術だけでなく『カウンセリング』や『サロンワーク』などを通じてコミュニケーション力の育成に注力したい。

また授業だけでなく普段の学校生活の過ごし方を見直し、自己実現のため、学ぶ環境の風土・雰囲気作りをし、学校としての存在価値を高めていきたい。

##### 1. 生徒教育(教務)の継続と強化

人間力(マナー・モラル、挨拶やリアクション等)を磨く、主体性、技術力向上の為の取り組みを強化する

2. 退学率の低減への取り組み・就職支援(在学・卒業後)・資格検定の合格率向上に向け、質を高めていく

3. 課外活動や地域貢献活動の強化、卒業生支援の強化を図り、学校の質の向上と存在価値を高める